

## 「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	東北大学	整理番号	1803
プログラム名称	人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	金子 俊郎

### (評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</li> <li>■ A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</li> <li>□ B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</li> <li>□ C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。</li> <li>□ D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。</li> </ul>
<p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、文部科学省の補助金による大学院教育プログラムや大学独自の大学院教育プログラムを含めた多くの学位プログラムの横断的な運営のために、高等大学院機構を大学執行部のリーダーシップで構築・運営している。これによって、事務組織の集約化や基盤教育プログラムの共通化を進める等の効果を得ていることは高く評価できる。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、プログラムを修了している学生がまだいないものの、本年度修了する学生の多くが連携企業などの企業に内定しており、またアカデミックポジションに進む学生も複数いることが報告されている。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、課題発掘や解決策探求のための実践的な教育を行っていくために、企業の研究者と協働して産学連携教育のPBL科目群を構築し、産学連携教育の教育・学習環境整備を行っている点は高く評価できる。また、注目される2回（企業インターンシップ3か月以上及び共同研究インターンシップ3か月以上）のインターンシップ制度によって、企業の現場での実際の研究開発プロセスを経験することは、実践力の育成に効果を上げていると考える。しかしながら、博士論文執筆を含む一連の研究活動との折り合いが困難であることも多くの学生から報告されているので、学生の切実な意見も聞くなど、よりフレキシブルかつ緻密な対応や指導が求められる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、優秀な学生を獲得する努力は続けられてはいるが、修士課程1年からの入学者が毎年減少している。修士課程1年からの5年一貫教育を追求することを推奨する。学生への経済的な支援は極めて有効に働いており、多くの学生が「このプログラムがなければ博士課程進学を諦めていた。これによって研究に集中でき</p>

る」と語っている。

世界に通用する確かな質保証システムについては、専門分野外の教育を受け、異分野の学生と接することは学生にとって大きな魅力となっており、俯瞰力の獲得が期待されることは評価できる。また、各研究科における学位審査に加えて、産学共創大学院部門の学位審査と本プログラムの最終審査(QE3)を総合的に評価する質保証システムを構築している。

事業の継続・発展については、高等大学院機構の構築によって多くの学位プログラムを無駄なく横断的かつ効率的に運営できていることは高く評価できる。一方で、本プログラムの補助金が終了してからの学生の経済援助を含めた運営には、企業等からより多くの外部資金を獲得する必要がある。